

「関係性の美学」とは何だったのか？ 20年後の『関係性の美学』

実践女子大学 アート・コミュニケーション研究所
公開レクチャー・シリーズ ③

2018年2月24日（土） 14：00～17：30

実践女子大学渋谷キャンパス120周年記念館 602教室



星野 太（ほしの ふとし）氏

1983年生まれ。美学／表象文化論。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。現在、金沢美術工芸大学専任講師。著書に『崇高の修辞学』（月曜社、2017年刊）、編著に*The Sublime and the Uncanny.*（UTCP、2016年刊）、共著に『コンテンポラリー・アート・セオリー』（イオスアートブックス、2013年刊）、『キュレーションの現在』（フィルムアート社、2015年刊）、訳書にカンタン・メイヤス『有限性の後で』（共訳、人文書院、2016年刊）などがある。

フランス出身の理論家・キュレーターであるニコラ・プリオー（1965-）が刊行した『関係性の美学』という本は、作品や作者を「関係」の創出という観点から論じたものであり、その新しい視点が話題になりました。その後、本書に対する様々な論争が起こることで、現在に至るまで影響を与えています。本年は、その刊行から20周年であり、プリオー関連で多くの発言をしてきた星野太氏を迎え、この本の内容を再確認すると共に、その影響について考えることにします。

また、群馬で活動する現代美術作家の白川昌生氏と、アートと社会の関係性について発言してきた神野真吾 本研究所所員を加え、日本のアートシーンの諸問題からの討論も行います。

【スケジュール】

第1部 14時～15時30分
公開レクチャー 講師 星野太 氏
20年後の『関係性の美学』

第2部 15時40分～17時30分
第1部を受けて討論会

司会

椎原伸博 本研究所所長
実践女子大学文学部教授

ゲスト コメンテーター

白川昌生 現代美術作家

コメンテーター

神野真吾 本研究所所員
千葉大学教育学部准教授

定員 130名 先着順 入場無料